



4. 高松港・坂出港の要請と課題

4.1 物流・産業面の要請と課題

(1) 海上物流基盤の強化

1) コンテナ物流の効率化に向けた対応

社会動向	該当項目
人口減少、高齢化、規制強化によるトラックドライバー不足によるモーダルシフトの進展。	2(1)
海上貨物のコンテナ化と、トラック輸送からのモーダルシフト。	2(4)
D Xによる生産性向上。	2(8)
物流の効率化による環境負荷の低減。	2(9)

現状と問題点	該当項目
香川県内の工場は中讃地域に集積。	1.1(2)
坂出市は高速交通網の要衝。	1.1(3)
コンテナ貨物の蔵置空間不足と不適切な配置による非効率な荷役。	1.2(4)2)
高松神戸航路では、満船のため乗船できない車両が発生しており、輸送力強化に向けて、運航事業者が新造船を建造。	1.2(4)2)
高松神戸航路の新造船に対し、既存岸壁の機能及びコンテナ貨物の蔵置空間が不足。	1.2(4)2)
輸量量の増加が求められるが、C F Sなどの背後機能が不足。	1.2(4)2)
坂出港の定期R O R O船航路は、東京港からの下り便がない。	1.3(4)3)
現状比較と棲み分け(コンテナ物流)。	5(2)1)

要請と課題	該当項目
▶ コンテナヤードの拡張。	6.4(1) I)①
▶ ターミナルへの情報化技術の導入。	6.4(1) I)①
▶ コンテナターミナル背後地に、物流拠点施設の設置。	6.4(1) I)①
▶ 高松神戸航路の輸送力強化に対応した岸壁、車両待機スペースの確保。	6.4(1) I)②
▶ 定期R O R O船航路の安定的な維持と拡充。	7.4(1) I)①

2) 東南アジアとのコンテナ定期航路就航に向けた対応

社会動向	該当項目
県内企業とアジア諸国との経済関係の緊密化。	2(3)
大型化が進むコンテナ船。	2(6)

現状と問題点	該当項目
東南アジアとのコンテナ定期航路の平均船型に対し岸壁の水深が不足。	1.2(4)2)

要請と課題	該当項目
▶ コンテナターミナルの岸壁増深と定期航路の誘致。	6.4(1)Ⅰ)①

3) 貨物船の大型化に向けた対応

社会動向	該当項目
大型化が進むバラ積み船、自動車専用船。	2(6)

現状と問題点	該当項目
高松港朝日地区(-12m)耐震強化岸壁では、岸壁延長が若干不足するため、大型の自動車専用船の入港が限定的。	1.2(4)3)
坂出港林田地区・中央ふ頭地区では、岸壁水深不足のため、輸入船(麦)の喫水調整が必要。	1.3(4)2)
地形的に坂出港の方が高松港より航路水深の確保が容易。	5(2)2)
現状比較と棲み分け(大水深岸壁)	5(2)2)

要請と課題	該当項目
▶ 高松港朝日地区(-12m)耐震強化岸壁の延伸。	6.4(1)Ⅰ)①
▶ 坂出港での大水深岸壁の整備。	7.4(1)Ⅲ)①

4) 坂出港における滞船と施設の老朽化への対応

現状と問題点	該当項目
坂出港中央ふ頭地区では、施設が老朽化・陳腐化しているが、背後地が狭く現位置での更新・対策が困難。	1.3(6)
坂出港林田地区では、利用状況により自動車専用船の滞船が発生する中、バイオマス発電所の建設が予定されており、利用状況の一層の逼迫が懸念。	1.3(4)2) 1.3(4)5)

要請と課題	該当項目
▶ 坂出港中央ふ頭地区の施設の更新、集約、機能強化。	7.4(1)Ⅲ)①
▶ 坂出港林田地区での滞船の解消。	7.4(1)Ⅲ)①

5) 高松港へのアクセス機能強化に向けた対応

現状と問題点	該当項目
高松港朝日地区の西側にある琴電本町踏切は、交差点内に踏切があり、安全面と交通の流れが問題。	1.1(3)

要請と課題	該当項目
▶ 琴電本町踏切付近における交通の円滑化と安全性の向上。	6.4(1)Ⅰ)③

(2) エネルギー拠点としての機能強化

1) 脱炭素社会の実現に向けた対応

社会動向	該当項目
2050年までに脱炭素社会を目指す政府が宣言。	2(9)

現状と問題点	該当項目
坂出市にエネルギー企業が集積。	1.3(4)1)
広域海上BCPにおいて、坂出港は、四国のエネルギー拠点に位置づけ。	5(2)4)
現状比較と棲み分け(大規模災害に向けた対応)。	5(2)4)

要請と課題	該当項目
▶ カーボンニュートラルレポートを形成し、脱炭素社会の実現に貢献。	6.4(1)Ⅰ)④ 7.4(1)Ⅲ)②
▶ エネルギー拠点として坂出港背後地域の持続的な発展。	7.4(1)Ⅲ)②

(3) 臨港地区での産業用地の確保

1) 産業用地確保に向けた対応

社会動向	該当項目
製造業の国内回帰傾向。	2(3)

現状と問題点	該当項目
安定した浚渫土砂処分場の確保が求められるが、県内の海面処分場での受入れは概ね終了。	1.1(6)

要請と課題	該当項目
▶ 浚渫土砂等の海面処分場の確保。	6.4(1)Ⅱ)① 7.4(1)Ⅱ)①
▶ 臨海部での産業用地の確保と交通機能強化。	6.4(1)Ⅱ)① 7.4(1)Ⅱ)①

4.2 交流・賑わい面の要請と課題

(1) フェリーターミナルの安全・快適性の確保

1) フェリーターミナルの機能向上に向けた対応

社会動向	該当項目
香川県を訪れる外国人観光客が急増。	2(5)

現状と問題点	該当項目
島々への玄関口である高松港玉藻地区のフェリーターミナルでは、繁盛期の待合空間が不足。	1.1(5) 1.2(4)4
高松港玉藻地区のフェリーターミナルでは、歩行者動線と自動車動線とが輻輳。	1.2(4)4

要請と課題	該当項目
▶ 安全確保に向け、歩行者動線と自動車動線を整理。	6.4(2)Ⅲ)①
▶ フェリー乗船客の待合空間の確保。	6.4(2)Ⅲ)①

2) フェリーターミナル周辺における交通渋滞への対応

現状と問題点	該当項目
玉藻地区で新県立体育館の建設が進行。	1.1(7)

要請と課題	該当項目
▶ 交通渋滞の緩和に向けた対策。	6.4(2)Ⅲ)②

(2) みなとの賑わい創出

1) 大型クルーズ客船の受入れに向けた対応

社会動向	該当項目
大型化が進むクルーズ客船。	2(6)

現状と問題点	該当項目
香川県沖の航路では、巨大船の夜間航行が禁止。	1.1(4)
高松港では、クルーズ客船の寄港数が増加(コロナ禍以前)。	1.2(4)5)
高松港玉藻地区の客船専用岸壁は、恵まれた環境に立地するも、岸壁や背後空間の規模が小さい。	1.2(4)5)
高松港朝日地区のコンテナ岸壁では、11万トン級の受入れが可能であるが、街から遠く、岸壁の調整が困難。	1.2(4)5)
坂出港では、国内船が年1回程度寄港。	1.3(4)4)
現状比較と棲み分け(クルーズ客船)。	5(2)3)

要請と課題	該当項目
▶ 高松港玉藻地区で大型クルーズ客船の受入れ岸壁の整備。	6.4(2)IV)①
▶ 高松港玉藻地区に、バスの待機空間を確保。	6.4(2)IV)①

2) ウォーターフロントの賑わい創出に向けた対応

現状と問題点	該当項目
新県立体育館建設のため、賑わい創出空間として利用されていた広場が縮小。	1.1(7)
高松港玉藻地区の賑わい空間は、地区の東と西に配置。	1.2(3)
市街地近傍にある坂出港西運河地区の賑わいが限定的。	1.3(3)

要請と課題	該当項目
▶ 中央ふ頭の再生。	6.4(2)IV)②
▶ 玉藻地区に様々なイベントに対応できる広場を確保。	6.4(2)IV)②
▶ 西運河地区に賑わい・交流拠点を創出。	7.4(2)IV)①

3) 情報通信技術の活用による利便性の向上に向けた対応

社会動向	該当項目
人口減少、労働力不足。	2(1)
香川を訪れる外国人観光客が急増。	2(5)
日本版「MaaS」の普及に向けた取組みの進展。	2(8)

現状と問題点	該当項目
交通モードの連携不足。	1.1(8)
観光需要の繁盛期と閑散期で必要な人員に差。	1.1(8)
日本版「MaaS」の実証実験を高松で実施。	1.1(8)

要請と課題	該当項目
▶ 「MaaS」によるサービスの一元化とDXによる業務の改善。	6.4(2)Ⅳ)③ 7.4(2)Ⅳ)②
▶ 人流及び滞在パターン分析を活用したサービスの改善。	6.4(2)Ⅳ)③ 7.4(2)Ⅳ)②

4) 賑わい空間の景観向上に向けた対応

現状と問題点	該当項目
高松港玉藻地区から屋島方向に位置する朝日地区には、多くの産業施設が立地。	1.2(3)

要請と課題	該当項目
▶ 産業施設と周囲の景観との調和。	6.4(2)Ⅳ)④

5) マリンレジャー振興に向けた対応

現状と問題点	該当項目
船溜まりの強風対策が不十分。	1.2(3)

要請と課題	該当項目
▶ 静穏度確保による海面の利活用。	6.4(2)Ⅳ)⑤

4.3 安全・安心面の要請と課題

(1) 大規模災害への対応力強化

1) 大規模地震・津波、高潮等への対応

社会動向	該当項目
南海トラフ地震が 30 年以内に 70～80%の確率で発生する見込み。	2(7)
地球温暖化の影響により高潮被害の激甚化・頻発化が懸念。	2(7)
過去の大規模災害の復旧作業において、海上輸送が活躍。	2(7)

現状と問題点	該当項目
離島航路のフェリー岸壁で耐震強化岸壁が未整備。	1.2(5)
香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画に基づき、計画的に整備を実施。	1.2(5) 1.3(5)
高松港玉藻地区は、国の現地対策本部設置が予定されている高松サンポート合同庁舎が立地。	5(2)4)
高松港は離島・神戸へのフェリーが集積。	5(2)4)
現状比較と棲み分け(大規模災害に向けた対応)。	5(2)4)

要請と課題	該当項目
▶ 港湾海岸施設における地震・津波対策の早期完成。	6.4(3) V)① 7.4(3) V)①
▶ 大規模災害発生時における継続的なフェリー航路の確保。	6.4(3) V)②

2) 港湾 BCP に基づく防災体制構築への対応

社会動向	該当項目
産業におけるグローバルサプライチェーンの進展。	2(3)
自然災害の激甚化・頻発化。	2(7)

現状と問題点	該当項目
現在の高松港 BCP、坂出港 BCP は、地震・津波が対象。	1.2(5) 1.3(5)

要請と課題	該当項目
▶ 「港湾の事業継続計画策定ガイドライン」の改訂に基づいた高松港 BCP 及び坂出港 BCP の充実。	6.4(3) V)③ 7.4(3) V)②

(2) スtockマネジメントの推進

1) 港湾施設の老朽化対策

社会動向	該当項目
港湾管理者の厳しい財政状況。	2(2)

現状と問題点	該当項目
港湾・海岸施設の老朽化。	1.2(6)
	1.3(6)

要請と課題	該当項目
▶ 維持修繕費用の平準化とコストの縮減。	6.4(3) VI)①
	7.4(3) VI)①
▶ インフラストックの適正化。	6.4(3) VI)②
	7.4(3) VI)②